

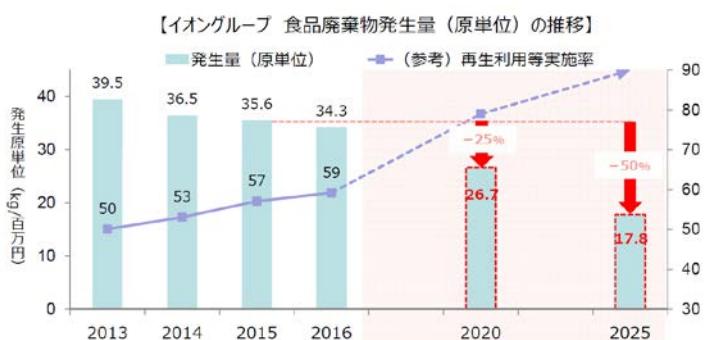
# 持続可能な社会の実現に向けたグループ全体で「食品廃棄物半減」への取組 (イオン株式会社)

イオンは、3R（Reduce/Reuse/Recycle）の手法により、廃棄物ゼロを目指し、取組を実施。食品廃棄物については具体的な数値目標として2025年までに半減を目指す。また、10月の食品ロス削減月間として、お客様への啓もう活動を強化。

## □ 2025年までに食品廃棄物の半減目標

(2015年度比※) ※売上百万円当たりの食品廃棄物発生量

- グループ全体での数値目標により、横断的な削減の取組の推進



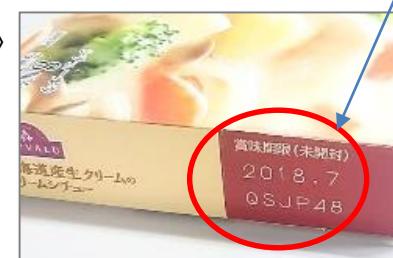
- 廃棄物発生量の「見える化」による削減と従業員の意識向上



## □ プライベートブランド商品の賞味期限の年月表示化や、保存容器による食品ロスを出さないライフスタイルの提案

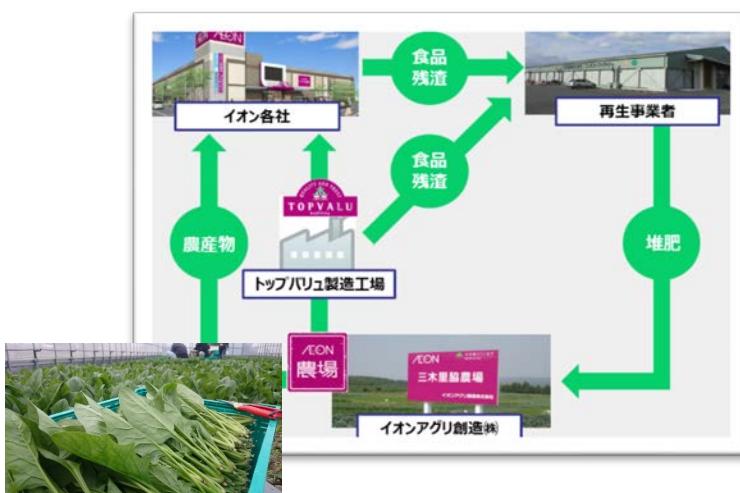
〈賞味期限 1 年以上の食品を「年月表示」化〉

〈保存容器を活用した食品ロスを出さない工夫の提案〉



## □ 食品リサイクルループの構築

- イオン独自の循環モデルを構築



## □ 食品ロス削減のアイデア募集

〈子供たちが主役となって環境をテーマにした体験と学習をする「イオン チアーズクラブ」のメンバーによる「家庭でできる食品ロス削減」アイデアコンテスト作品一例〉



## □ 消費者に向けた店舗での食品ロス削減の啓もう活動

食品ロスの半分は家庭から発生していることから、消費者への啓発も実施。

- 袋詰めカウンターなどで、消費者へ食品ロス削減を呼び掛けるPOPの展示。
- 食品の保存と使いきりの実演活動（神戸市とダイエーの連携）



- 棚の手前から食品をとってもらう「てまえどり」啓発（神戸市とダイエー・イオンリテールの連携）



- 「生ごみださないプロジェクト」（名古屋市とマックスバリュ東海の連携）



消費期限・賞味期限の違い、野菜を無駄なく使う方法などを店頭イベントにて情報発信

- 食品ロス削減月間に合わせて、イベント開催や地方公共団体のポスターを使った啓發  
〈京都市・よしもと連携し、若者世代への食品ロス削減を呼び掛け（2019年10月）〉



〈2019年京都市のポスターを活用した啓發活動〉



〈2018年京都市作成の啓發資材による継続的な啓發〉  
〈買物かごステッカー〉



## □ フードドライブの実施

家庭で余っている賞味期限内の食品を持ち寄り、フードバンクを通じて福祉団体や施設などに寄付する活動を実施。

〈イオンスタイル京都桂川店の様子  
10月19日～10月31日〉



「すぐに食べるのは手前から取ってね！」と記載したPOP